

「令和」の時代にふさわしい学校を目指して

今年度も「新しい自分創り」を進めます

校長 永井裕子

美しい花々が一斉に咲き始め、2019年度が始まりました。紫竹山小学校では、4月4日に前期始業式、5日に平成最後の入学式を行い、97名の新1年生が加わり、537名の全校児童数でスタートしました。また、10名の教職員も転入し、新生「チーム紫竹山」の誕生です。「令和」という新元号も発表され、紫竹山小学校の中を、さわやかな新しい風が吹いているように感じられます。

新しい学習指導要領による教育課程が完全実施となる2020年度を目指し、昨年度から、紫竹山小学校も「新しい自分創り」を進めています。この年は、創立30周年の大きな節目となる年です。平成3年創立以来、紫竹山小学校が築いてきた伝統を受け継ぎながらも、「令和」という新しい時代を生きる子どもたちが、未来を切り開くために必要な「資質・能力」を身に付けることを目指し、一人一人が「新しい自分創り」を続けるために、**もっと「思いやりがあふれる温かい（ぼかぼか）学校」**をつくっていきたいと思います。温かい学校・学級の支持的な風土が、全ての教育活動の土台となると考えるからです。そのために、これまでも子どもたちの**縦(異学年)と横(学年・学級)の人間関係づくり**に力を入れて来ました。今年度は、とくに「学級の支持的風土づくり」に重点を置き、「学級会」を活用し、自分たちの力で考え実践する経験を通し、自治の力を高めていきます。



もう一つ、今年度いっそうスピード感をもって取り組まなければならないことに、教職員の「働き方改革」があります。働き方に関連する国の法案も整備されています。新潟市教育委員会では、長時間勤務が常態化している市の教職員の勤務実態を踏まえ、「第2次多忙化解消行動計画」を策定しています。新潟市教育委員会からは、その指標の一つとして「**月あたりの平均時間外勤務時間が45時間以下の教職員を増やす。**」ということが示されています。そのために、**適正な退勤時刻の目安を、小学校は18時30分まで**(中学校は7時まで)としています。新潟市全体でも、電話対応の時間を統一するという対策を講じることとなりました。紫竹山小学校の教職員の勤務時間は、8時15分から16時30分までの7時間45分です。校内でも教職員でプロジェクトチームをつくり、アイデアを出し合い、多忙化解消に向けた業務の見直しを行っていきます。まず、今年度は、真に必要なかどうかの視点で検討し、**担任が作成する文書の削減**を進めます。教職員一人一人が時間と心のゆとりをもって、心身ともに健康を保ち、生き生きと子どもたちに向き合うことができれば、日々の教育活動が充実し、紫竹山小学校の子どもたちの健やかな成長に結び付く考えます。保護者の皆様・地域の皆様から、学校における「働き方改革」の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。